

就職活動を終えて

越谷 真理子（筑波大学 生命環境科学研究科博士前期課程2年）

自分自身の就職活動体験を書くその前に、三菱東京UFJ銀行から送られてきた小さな冊子の内容を紹介したい。銀行の宣伝等ではなく、就職活動を始める全ての人に送られたメッセージであり、私自身、就職活動を行っていく上での大切な軸となったからだ。

「視点」という贈り物の中から一部抜粋

就職活動という名で呼ばれる自分の歩む道の選択が、人生の歩み方の大きな選択であるにもかかわらず、どう生きるかという生き方の選択以前にどこに入るかという企業選びに終始しまいがちである。

生き方を選ばずに、企業という枠だけを選ぶと、いつか自己矛盾が起こる。そして、再び、道を選び直さなければならなくなる。なぜなら、企業とはある側面から見ると、その企業の持つ価値観を大切に生きていこうとする者たちの集まりでもあるからだ。脈々と受け継がれる価値観が、その企業の人格を形成していく。だから、企業を選択する時には、自分自身に行き方を問うことが大切なのだ。自分は、何を大切に生きていきたいのか。自分は、何を喜びに生きていきたいのか。自分は、仕事を通して何を得たいのか。

プロとして生きていく。という決意と覚悟。それは、この道で生きていくという逃げ場を残さない決意と覚悟。

では、仕事ってなんだろう？人や社会にどんな価値を与えたいのか。そのために自分をどう磨いていくのか。就職活動は自分らしい生き方を選ぶ最高のチャンスにもなるだろう。どう生きていきたいのかという軸は、ぶらさないほうが良い。覚悟を決めて働いているのか。プロとして生きていく…。

私の生き方。今までどう生きてきたかは参考程度であり、これからどう生きていきたいか。それが重要であると感じた。私は人に喜んでもらえることができると嬉しい。このような考えを持つ人は多いと思うが、その考えに辿り着くまで過程は人それぞれであり、それが個性というものだと思う。私は筑波大学生物学類に入学し、慣れない一人暮らしをはじめた。つくばエクスプレス開通以前であり、9割以上が一人暮らしのちょっと異常な環境。そんな中で料理の楽しさを知り、自分の作ったものを食べてもらう喜びを知った。自分の作った料理で先生、先輩、後輩、友達が驚いたり喜んだりしてくれる。そんな体験から、私は自分が作ったもので多くの人に喜んでもらえる仕事がしたいと漠然と思っていた。身近なことをやりたい、毎日の「食」に関わる仕事してみたい、そういう思いから食品業界で働きたいと感じるようになっていった。

さて、ここから実際の私の就職活動体験について話していきたいと思う。就職活動をはじめよう！といっても何から手をつけ

てよいのか最初は少し戸惑う。そんなときは、就職をサポートする企業（例えばリクナビ、マイナビ等）が行う合同説明会に参加すると良いだろう。自分の周りにはこんなにたくさん就職活動をしている人がいるのかと驚き、モチベーションがあがる。

私の就職活動を始めてからの流れを、時間経過に沿って簡単に述べることにする。就職活動は早く取りかかったほうが良いよ、と先輩からのアドバイスもあり、私は大学院に入学してすぐの4月頃から就職に少しずつ興味関心を持つようになった。

<私の就職活動の流れ>

4月～ 自分の興味のありそうな業界、企業を書きとめ始める。

6月 大学で行われる就職活動セミナーに参加。

8月 リクナビ主催のイベント（合同説明会）に行く。

9月 製薬会社のエントリー、エントリーシート（ES）の受付が始まる。

10月 就職サイトがオープンし、2009年度の就職活動が本格的に始まる。

・OB訪問で、社会人になった先輩の話聞きに行き「働く」雰囲気をつかむ。

・製薬会社の説明会、選考会が始まる。

11月 食品業界のES受付開始がスタート。ESの提出に追われる。

12月 面接、説明会を何社か受ける。

1月 年が明けて、選考会、説明会のラッシュ。

何社受けても一次面接に通過することができず、1月下旬頃から望ましくない結果続きで、こりゃいかん！私はこんなんじゃないと奮起する。

2月 1月末に奮起して今までの就職活動を見つめ直したことにより、いい波に乗る。そして下旬に明治製菓から内々定の連絡を受ける。明治製菓の選考が進むにつれ、自分の中での志望度も上がり、就職先に決めて就職活動を終わりにする。

○良かったところ

就職活動を早くから始めたこと。早め早めにESや履歴書を書く練習ができたことと、イベントにも多く参加できた。

○悪かったところ

1月下旬に気づいたことをもう少し早く気づくべきだった。それまでの自分は、自己分析が足りず、自分が会社に入ってやりたいこととその動機について、自分の考えが浅かった。また、周りの人（面接や説明会の会場で会う人）を意識しすぎていた。ライバルは他の就職活動中の人ではなく、自分自身であると気づいたことが私の就職活動において、大きな転機となった。面接がうまくいかなかった時の私は、無意識のうちに相手（面接官）のことだけを考えすぎていて、変なことを言わないようにと壁を作ってしまった。それでは、自分らしさが相手に伝わらないし、個

性のない人間になってしまう。一緒に働きたいと思ってもらうためには、やはり、ありのままの自分の姿を相手にわかってもらうことが1番である。私の面接がうまくいかなかった理由は、自分と企業の相性が合わなかっただけではなかったのだ。勝負の分かれ目は素の自分、ありのままの自分を初対面の相手（面接官等）に限られた時間の中で伝えることができるかどうかだと思う。ありのままの自分をうまく伝えるために私がやったこと（1月下旬から）は、主に次の2点である。

①肩の力を意識して抜く。面接ではどうしても緊張し、自分では気づかぬうちに肩に力が入っていることが多い。肩の力を意識して抜くことでリラックスができ、自分の考えを相手にうまく伝えることができる。つまり、面接官ときちんと（スムーズに）対話ができる。

②エントリーシートに書いたことについて考えを掘り下げていく。

ES提出時にも大方考えをまとめているが、提出しなければならぬESが増えてくると、1つ1つにかかる時間も少なくなってしまう、考えが浅い場合がある。そこで、面接前にもう一度考えをまとめておく必要がある。私の面接が1月下旬以降うまくいくようになったのは、ESに書いた言葉1つ1つについて「なぜ、どうして？」と自問自答することにより、考えがまとまって、本当に自分が相手に伝えたい想い、情熱がわかってきたからである。この自問自答の繰り返しで、自身の軸がぶれにくくなり、面接官が様々な角度から質問をしてきても答えられるようになる。「なぜ、どうして？」の答えがなかなか見つからないことがあるが、あきらめずじっくり考えれば自然とわかってくるはずである。

就職活動がスムーズに終わる人は少ないと思う。多くの人が自分の思い通りに進まず悩むだろう。私は元々前向きでありくよくよ考えないタイプの人間であると自分では思っていたが、面接で落ち続け、悲観的になってしまった時期もあった。しかし、そんなときは原点に戻って「自分の生き方」を考えたり、自己分析を改めたりして自分を少し離れた場所から見るとよいと思う。

参考までに・・・

●面接でよく聞かれた質問

- ・10年後どのようになっていたいか。
- ・ストレスの発散方法。
- ・周りの人からどういう人だと言われるか。
- ・自分を何かに例えると。

●私自身の会社を選びのポイント（私が重要視したこと）

・社風・説明会での社員の雰囲気（自分自身の直感を信じてよいと思う。）

説明会で使われるビデオの中の社員の雰囲気。

- ・企業理念・何かを行うことにあたっての本質になると思う。

自分のポリシーとして「どうせやるなら楽しくやりたい」ということがある。1月の切羽詰まった時期には忘れかけていたことである。自分が楽しく（この「楽しさ」という言葉も曖昧であるから、ES、面接等では自分なりの定義が必要）働ける場所を探していた。私なりの「楽しさ」とは、どんなときでも常にそのことを考えていられることである。無意識のうちにそのことで頭がいっぱいになっているのなら最高だと思う。そのようなことをできる場所で働くことが私の夢である。明治製菓という会社がある。明治製菓という会社であることを願いつつ、自分自身でそのような環境にしていきたい。明治製菓は、面接等で自分を素直に出してうまくいった会社であるので、入社した後もきっとのびのびと仕事をすることができるのではないかと思っている。あと1年間は大学生活を満喫し、その後社会に出る。今から働くことが楽しみである。

最後に私の就職活動を支えてくれた方々へ簡単にではあるが、感謝の気持ちを述べたいと思う。私の自己分析を手伝ってくれた家族、友達、先輩、後輩、先生方、本当にありがとうございます。ある飲み会で隣に座った男の子がこんな一言を私に言った。「こっしーはやっぱお母さんみたいだね。」この一言で救われ、自分がどんな人間であるのかを教えてくれた。その後の面接は自分でも驚くほどうまくいったのである。この友達には本当に感謝している。就職活動は自分との戦いでもあるけれども、週末は友達とおいしいものを食べたり飲んだりして沢山話をするといい。他の研究室の先輩や後輩と話をすることも息抜きになるし、またちょとしたことから自己分析につながる大きな発見があるかもしれない。

Communicated by Kei Nakatani, Received April 9, 2008.